



ものづくりマイスター派遣先

一宮工業 株式会社

〒441-1231 愛知県豊川市一宮町上新切 510

概要

(H28.7 取材当時)

代表者 夏目 雅敏

資本金 1,500万円

工場 白鳥工場 (豊川市上長山町白鳥前8)

事業内容 各種パレット製造・販売
溶接・機械加工部品の製作

設立・沿革 昭和38年10月 夏目製作所として発足
平成4年3月 一宮工業株式会社に変更

従業員数 30名

後継者の育成が最大の悩み

これまで主力となって活躍してきた団塊の世代の方々がだんだん引退されて、当然のことながら若手を採用しなければならなくなりました。

若い技能者を教育するためのノウハウが分からず、どのように育てたら良いか悩んでいたところ、この「ものづくりマイスター制度」を知って、是非うちでもお願いしたいと思って飛びつきました。



高須マイスターの指導の様子



カリキュラム

期間	平成27年7月～平成28年2月
実施場所	株式会社一宮工業 本社工場
受講者数	4名

	指導日	指導内容
1	7/8	溶接技能知識確認と穴あけ作業
2	8/19	ガス切断作業
3	9/9	切断材料歪取り、バリ取り作業
4	10/14	切り曲げ、焼き曲げ作業
5	11/11	部品溶接、歪取り作業
6	12/9	組立溶接作業
7	1/13	寸法確認仕上げ調整作業
8	2/10	難技能再指導

技というのは自分の知識と動作を いかに素早く動かすかということ



素晴らしい技能検定

技能検定という制度は素晴らしいと思います。自分で実際に受けてみて、技能検定は絶対自分のためになると思いました。それも実技はもちろんのこと、学科が非常に参考になると思っています。一宮工業に来て、受講者に技能検定を持っているかと聞いたところ、持っていないというので、早速技能検定を目指して頑張ろうと言いました。



「見て覚えよ」は昔の話

かつては「見て覚えよ」と言われていました。作業をする時にうまくなるつもりでやっても、ちょっとした体の姿勢が違っていたり、間違えて覚えてしまうことも多いです。「見て覚えよ」は時間的余裕があった時代の話で、今は1つずつ細かく要領を教えていくと上達が早いです。

例えば、同じ幅で溶接するためにはどうしたらいいかと聞くと、皆「一定の速さで動けばいい」と答えます。しかし、一定の速さで動いても同じ幅にはできません。溶けたところの大きさを見ながら大きければ早く動き、小さければゆっくり進めばいいのです。このように、自分で判断しながら、自分でその瞬間瞬間をコントロールしながら作業を進めていかなければなりません。



五感を使って感じたことを引出しにしまい、 必要な時に動作に表す

こういう時にはあのようにする、ああなった時にはこのようにするというように、経験を積みながら自分

の引出しをたくさん用意しておくのです。そのつど五感を使って感じたことを引出しにしまっておけばよいのです。必要な時にその引出しを1個開けて、それを動作に表す。それが技だと思います。技というのは、自分の知識と動作をいかに素早く動かすかということです。それができるとき「腕がいい」と言われます。



ただ単に見るのではなく、 考えながら見るのが大事

4人の受講生がいて溶接機が2台しかなければ、2人が溶接をしているときは他の2人は必ず見ておくように指導します。私が教えたことを忠実にやっているかを見ておくように言います。言われたことをやっていなかったらなぜやれなかったのか、自分ならこうすると考えながら見てほしいと言います。ただ単に眺めるのではなく、言われたことを守っているかどうか考えながら見るように指導します。そうすると、溶接機は2台しかなくても4人全員が一緒に勉強することができます。

練習のときにはたくさん失敗してもいいのです。1人が失敗したときには皆に「なぜこのような失敗をしたのか」、「こういう理由で失敗したんだ」ということを説明すると、非常によい参考例になります。

とにかく受講生の皆さんは一生懸命に真剣に取り組んでくれました。その点が最も印象に残っています。

ものづくりマイスター

高須 哲夫 (たかす てつお)

昭和22年2月18日生まれ

昭和51年度 1級技能士 鉄工(製缶作業)取得

平成17年度 卓越した技能者の表彰「現代の名工(鉄工)」受章

平成25年度 厚生労働省ものづくりマイスター(鉄工)認定

平成26年度 厚生労働省ものづくりマイスター(電気溶接)認定



将来の目標は技能士の数が増えて 会社の技術力が向上すること



夏目 雅敏 社長

● ● ● 地域技能振興コーナーとの コンタクトがきっかけ

「ものづくりマイスター制度」を知ったのは、ある講演会で配布されたアンケートでした。興味があるので是非教えてほしいと思い、地域技能振興コーナーとコンタクトをとるようになりました。「現代の名工」のような方が地方の中小企業を指導してくれることは、普通はありません。そうした方の指導が受けられること、また、指導に係る経費を支援してもらえるなど、非常にありがたい制度だと思います。

● ● ● 主力を投入して 仕事のやりくりの苦勞

年間スケジュールを立てていたとはいえ、仕事のやりくりとの調整がかなり大変でした。しかし、若い従業員が高須マイスターの指導により力をつけ、技能検定に挑戦するなど、目に見えてその効果を実感しています。

● ● ● 自発的に取り組もうという 姿勢が出てきた

「ものづくりマイスター制度」を取り入れた一番のメリットは、自分たちで腕を上げなければいけないとか、練習をしなければいけないというように、自発的に取り組もうという姿勢が出てきたことではない

でしょうか。会社としては、従業員の一人ひとりが技術を上げることに貪欲になってくれるとありがたいです。

● ● ● 仲間どうして受講させると 効果がある

これからの導入する企業へのアドバイスとしては、1人だけではなく、3人とか4人くらいのグループで受講させ、仲間どうして技能検定を受検しようという目標をもって取り組ませると効果が上がるのではないかと思います。ある程度の人数を受講させることは、経営者としては時間のやりくりが大変ですが、とても大事だと思います。

● ● ● 技術畑で生きていく以上、 技術の向上が重要

当面の課題は技能検定に合格できるような力をつけさせることですが、将来の目標としては、技能士の数がどんどん増えていって、会社全体の技術力が向上していくことです。そのために、個人がモチベーションを上げていくためのきっかけを作っていくことが大切です。技術畑で生きていく以上、技能・技術を上げていくこと、腕を上げていくしかないんだという意識を従業員たちが持ってくれたらありがたいです。



高須マイスターの指導の様子

受講者の声

新しい技術を身につける 良い機会だと思って挑戦



杉山 遼太郎さん



鳥山 真さん



森下 正則さん



無駄のない動きで 仕事を進めるための方法も教わりました

高須マイスターの腕は鮮やかで、ガス溶断にしても溶接にしても、緩やかで静かにまっすぐにできるところがすごいです。また技能だけでなく、知識も豊富で、質問をするとすぐに答えてくれます。検定課題の図面などがすべて頭に入っているようです。道具のきちんとした使い方や手入れの仕方、特に道具の手入れを大事にすべきということを教わるとともに、無駄のない動きで仕事を進めるための方法も教わりました。(杉山さん)



手が止まる時間がなくなり、自然に 体が動くようになったような気がします

溶接などまったくできなかつたのですが、受講の話がきたときに「教えてもらえるなら自分の糧にして、仕事に活用できるようになりたい」と思いました。高須マイスターの知識はすごいいし、技術につい

ても、こうやったほうがよいと何も知らない私にも分かりやすく教えてくれました。高須マイスターの指導を受けて、無駄な時間、手が止まる時間がなくなり、自然に体が動くようになったような気がします。(鳥山さん)



技能検定の課題製作で 学んだことがそのまま仕事に使える

私が一番年長で、後輩たちには負けたくないという気持ちが強かったです。とにかく自分が自信を持てるまで練習を積み重ねました。仕事の面で人からこうしたほうがいいと言われたこと、そして自分で納得したことは比較的よく覚えているほうです。言われたことは実際に自分で試してみ、身につけることにしています。技能検定の課題製作と仕事で製品を作ることは、同じ「作る」でも異なりますが、高須マイスターは、課題の製作を通して、上手く仕事に関連づけた説明をしてくれたので、この点はものすごくためになったと思います。(森下さん)

地域技能振興コーナー担当者より

今回の事例は、電気溶接の基礎技能習得から、技能検定鉄工職種の2級、更に1級へと上位技能を習得された事例です。社内だけで培われた技能だけを若手技能者に伝えていくことに危機感を感じられ、「ものづくりマイスター制度」の活用により、今回の実技指導を申請されました。

高須マイスターの指導は、技能・技術だけでなく、

道具の手入れ、整理・整頓や溶接前・溶接後の作業の仕方まで指導され、人材育成にも大きな成果があったと評価をいただいています。今後も実技指導依頼先からのニーズと、ものづくりマイスターが指導できる技能との適合性を事前に把握して、より成果が期待できる実技指導サポートをしていきます。